

公民館報

# 坂城

令和4年  
2022.6.24  
No.398

発行／坂城町公民館 発行人／塚田 常昭 編集／広報部 印刷所／滝沢印刷（同）  
〒389-0602 長野県埴科郡坂城町大字中之条 2468 文化センター内  
TEL.0268-82-2069 FAX.0268-82-8722



## ❖主な内容❖

- 令和4年度公民館体制…………… 2P
- ふるさと探訪PART113…………… 3～5P
- 行事から、500字リレートーク…………… 6～7P
- お知らせ、館説開畝…………… 8P

さかきふれあい大学  
「坂城の里山に登ろう」  
大峰山山頂から望む景色  
空気が澄んでいれば富士山を  
しっかりと見ることができます。  
(関連記事6P)

# 令和4年度坂城町公民館事業スタート！

令和4年度の公民館活動がスタートしました。

本館専門部のみなさん、分館役員のみなさんを紹介します。一年間よろしくお願ひします。

## 分館役員のみなさん

(敬称略)

分館	分館長	副分館長	文化部長	体育部長	広報部長
鼠宿	成沢 伸一	藤井 利道	山崎 勉	斎藤 貴生	赤池 隆伸
新地	清水 守	瀧澤 幸雄	内山 貴博	神林 臣徳	西澤 丈典
金井	宮原 邦彦	石塚 伸吾	保坂 昭人	佐藤 昇樹	田中 秀紀
入横尾	大屋 守	山木 孝浩	田中 和也	掛川 太一	赤池 諒介
町横尾	窪田 茂幸	風間 隆文	中村 文昭	清水 智成	竹本 修
泉	白田 嘉文	宮島 茂	小林 茂和	柳澤 智裕	小林 和美
中之条	塚田 恭久	宮後 秀紀 荒井 謙昇	笠井 利幸	石井 正芳	石井 卓哉
四ツ屋	中村 修二	谷井 伸安	宮原 安久	池田 辰美	宮原 宏二
戌久保	前澤 耕治	武田 昌之	森 一美	西澤 和也	森 一美
御所沢	滝沢 幸映	中村 和彦	柳沢千鶴子	塩野入良夫	滝沢 由江
田町	小宮山勝人	西村 右子	五十嵐康志	南澤 祐	近藤 敏朗
横町	宮坂 龍也	依田 正道 相川 正道	澤崎 環	桐間 聡	小林 恭久
込山	西沢 融	河内 一平	酒井 丈志	柴田 聡也	金澤 貴俊
立町	児玉 秀一	前山 一隆 坂口 宗久	田村 千里	祢津 明子	中沢 等
旭ヶ丘	永井 秀雄	高橋 昭一	青木 幸子	村松 修	永井 秀雄
南日名	小宮山忠明	山浦 隆 砂田 和男	谷川与士夫	谷川 潔	谷川与士夫
北日名	西沢 正一	春日 英次 中澤 啓吾	西澤 滋	中村 公彦	中澤 啓吾
日名沢	小林 弘	萩原 秀三	柳沢 裕二	田中 広一	小林 照子
大宮	北沢 敬治	下倉今朝夫	和田 正	小宮山広幸	小宮山 宏
新町	黒岩 千尋	清水 浩樹	中澤 弘幸	宮原 一男	吉川 信哉
坂端	高橋 昇	竹中 譲	高橋 光博	高橋 憲彦	高橋 福衛
苧屋原	千野 俊博	水出 和夫	千野 尚之	水出 康成	酒井 博司
網掛	宮入 健誠	宮原 市夫 大井 意輝	可知 亨	大井 明彦	朝倉 剛
上五明	粕尾 雅由	畑 敏夫 竹内 慶伸	山田 博美	塚田 雅俊	近藤 裕一
上平	武田 裕樹	山辺 繁雄	村上 千鶴	柳澤 俊男	依田 俊明
小網	吾妻 忠明	梅原 淳一	田島 明美	赤池 邦浩	伊藤 政次
月見	春日 利幸	堀内 幸世	柴田 隼人	宮尾 裕之	金井 勉

## 本館専門部員のみなさん



専門部は、町公民館の事業をそれぞれ分担して企画立案し、公民館運営の要として活動します。

### 総務部

町公民館事業全体を検討し、推進します。

部長 大屋 守 (入横尾)  
副部長 武田 裕樹 (上平)  
中村 修二 (四ツ屋)  
小宮山忠明 (南日名)

### 文化部

文化事業を企画し、運営します。

部長 笠井 利幸 (中之条)  
副部長 山田 博美 (上五明)  
澤崎 環 (横町)  
中澤 弘幸 (新町)

### 体育部

健康増進のため体育事業を企画し、運営します。

部長 水出 康成 (苧屋原)  
副部長 大井 明彦 (網掛)  
神林 臣徳 (新地)  
祢津 明子 (立町)

### 広報部

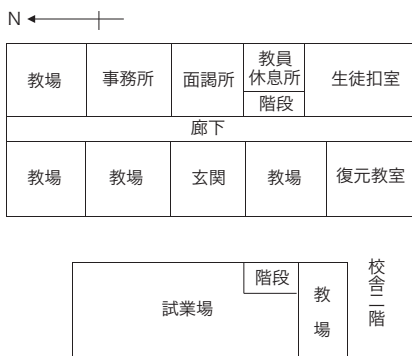
公民館報を編集し、発行します。

部長 小林 和美 (泉)  
副部長 滝沢 由江 (御所沢)  
小林 照子 (日名沢)  
金井 勉 (月見)

## もっと知りたい！格致学校！

### ～卒業生に聞く、校舎の思い出(後編)～

【移築復元後平面図】  
 『県宝旧格致学校校舎移築復元工事  
 報告書』を基に作成



町立図書館に隣接する「県宝 旧格致学校校舎」は、明治十一年建築の校舎です。現存する校舎としては、中込学校（佐久市）、開智学校（松本市）に次ぐ古さです。元々は、中之条の雇用促進住宅周辺に所在し、制度の変更と共に校名を変え、昭和三十七年（一九六二）に坂城中学校中之条部校の校舎として、その閉校と共に役目を終えました。

閉校後、校舎は傷みが進み、解体の声もありましたが、昭和四〇年に保存運動が起こり、五一年の県宝指

定、五八年の移築復元につながりました。格致学校校舎を保存できたことにより、明治初期の学校建築の様式や技法はもとより、その特徴や工夫に込めた、当時の人々の教育に対する熱意や子どもへの深い愛情が、現在まで残されることになりました。文化財保存の意義深さを教えてくれる校舎です。

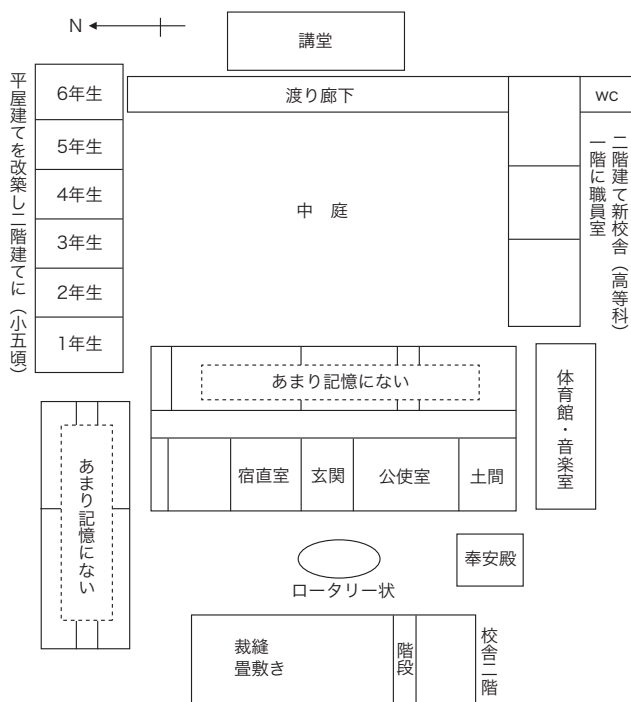
PART 一一〇に続き、卒業生のお話の後編をお届けします。（お話の内容を事務局が再構成しています。）



滝沢 功さん  
 （昭和十八年 中之条国民学校入学）

#### 星の観察

玄関は、先生しか通らなかつたね。生徒は正面からは全然入らなかつた。生徒は横から入ったんです。通学の履物は下駄げたですね。下駄履いてる方はいい方で、草履なんてこともありました。うちで作った草履ね。校内の掃除は生徒がやった



【配置図①】 滝沢功さんのお話から再現した校舎配置図 (昭和18～26年頃)

んですよ、当番決まってるね。公使さんがいましたけど、掃除は生徒が。公使室の土間では、宿直の先生のご飯用意したりね、給食の味噌汁煮たりもしましたね。土間に大きいカマドがあったね、そこでお湯炊いたりね。宿直室は、具合悪くなればここへ来て横になったりしたもんです。

ここで授業やったのは、中学に入ってから。裁縫っていうのがあってね、家庭

科だね。この二階で、男もやったんですよ。それから、小学校のときに、うちから布団や毛布持って来て、泊りがけで星の観察っていうの二回ばかりやりましたよ。教科とは別に、先生が好いで。七時頃見て、それからまた夜中に起きてみんなで見かね。星座の動きを観察した記憶があります。

黒い種こくろなる木  
 中庭にはカシノキとか、シランボっていつて実



のなる木が2、3本あったんですよ。ヒガンザクラも植わってました。前庭には大きなムクロジの木があったね、枝張ってたんですよ。種が黒くてね。実の中に羽子板の羽の芯にするような黒い種が成って、秋になれば拾いに来たもんです。正面玄関の前は松があつてね。ロータリーみたいになつててね。

### 軍国主義から民主主義へ

戦争の最中から、終戦になる、その過渡期というか、その両方経験してるもんでね。戦争にこそ行かなかつたけれどね、盛んな頃から、戦争が終わつてね、民主主義というものが入り込んだ境目がね、ちょうど小学校の三年頃からですかねえ。今までの教科書なんか全部墨塗つてね、使われなくなつて。当時物不足だったからね、教科書なんか新聞の様に大きいものをね、切つてね、うちで留めて使つたことあります。内容はもちろん変わります

たし。盛んに先生も民主主義、民主主義つて言葉を使うようになってね。上からの命令で全部動いていたものが、話し合いで決めるとか、女性との平等とかね。そういう考え方が養われていくには大変なときだったですね。



堀内 重徳さん  
(昭和十九年 中条国民学校入学)

### 公使室の「ばやん」

この校舎を使つたつていうのは、二階に裁縫室があつてね、畳の間が。そこで宮原つて先生に教わつたんだよね。戦後間もなくだからね、男も運針やれつてわけ。雑巾作るつていてね。机は低いやつで、そこで裁縫やつた。畳の間だからつて、おれたち男はそこで柔道やるだなんて言つて、下へ埃舞うくらいどこかんどかんとやつて怒られて。二階に上がる階段は、幅が狭くて、うんと急です。たしか裁縫室は階段上がつ

て左だったな。

### 公使室は土間があつて、

小使いさん、おばさんがいたんだよね。何て姓だか忘れちゃつたな。「小使いのばやん」つて呼んでたから。大きいカマドがあつて、大釜でみんなのお湯を炊いて、みんなそこへお湯を貰いに行つた。始業時間とか休み時間とか、大きい鐘ね、じゃらあんじゃらあんなつて、教室まで聞こえるように鳴らして歩いて来てくれるだよ。今の始業ベルだとか、そういうのなくて。あれだけでも苦労だと思ふけどね。「おおー、何やつてるだ？これこれ」なんて、子どもんとこ注意したりしてね。親しまれていたよね。

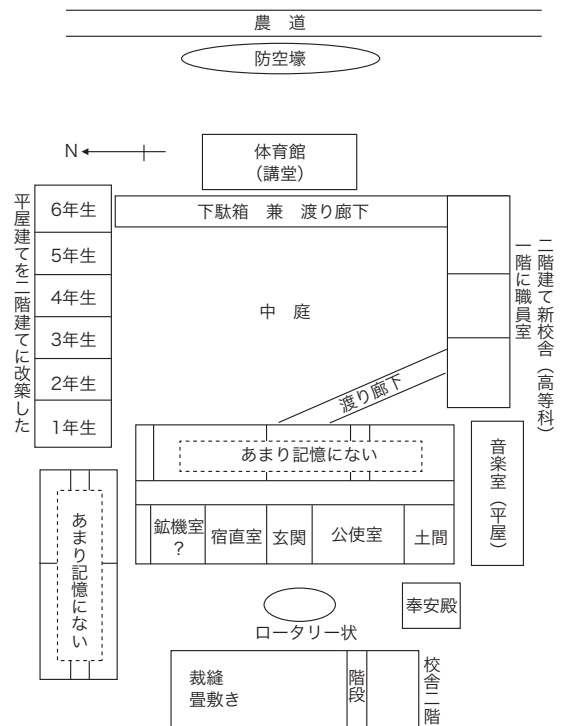
理科準備室つていうのはなかつた。玄関とつながつて、新校舎へ斜めに廊下ができていたと思つたなあ。

### 奉安殿と防空壕

学校の前は坂道でね、坂上がつて右手に奉安殿つて白い建物があつて。大きさ

### 【配置図②】

堀内重徳さん・三井清忠さんのお話から再現した校舎配置図  
(昭和19〜27年頃)



【解体移築前の校舎背面】(『県宝旧格致学校校舎移築復元工事報告書』より。校舎中央に開口部が見える)

は二間ぐらい。みんな最敬礼で頭下げて、学校へ入って行ったんですね。戦後払い下げになってね、中之条の人が買ってくれて、国道曳いてったですよ、そのまんま。曳家<sup>ひきま</sup>って工法で。国道も半日に一台か二台、東信バスだかつてのがあって、木炭積んでたそのバスが通るくらいのものでから。その時間だけちよつとよけるかなんかしてね。

グラウンドの東側が土手になって、そこに防空壕掘ったね。土手の上に農道があつて、その下を掘った。生徒がうんと入れるぐらいの。いくつも入口あつて。今はその跡はないけど、農道は残ってるね。

内地が爆撃されるようになってきて、校舎と奉安殿の白壁を煤<sup>すす</sup>で黒く塗ったと思つたけど…記憶違いかも。



三井 清忠さん  
(昭和十九年 中之条国民学校入学)

### 防空警報発令!

終戦は二年生、八歳のときです。

鉋機室に何か機械らしきものがあつたことは記憶にあるんですよ。でもどういふ活用したのかは記憶にないです。

教室棟の北側一帯が校庭で、南側は中庭。中庭も結構広がったな。

防空壕はかなり大きいものだと思うよ。穴の本数かなりあつた気がする。練習で「防空警報発令!」つてやると、子どもたちみんな入っちゃったからね。終戦の年なんて、寒い時期に結構アメリカの攻撃が多かつた。運よくそこに段差があつたからね、改めて地面に穴を掘らなくても、横穴掘るだけでよかった。村の大人が掘つたね。勤労奉仕だと思ふよ。今も一カ所ぐらい掘り起こせば跡形はあると思ひますよ。

この校舎が再建されたとき、やっぱり懐かしかったな。この建物だけは今も残ってるもんね。

いかがだったでしょう。楽しい思い出や、戦争の影響を感じさせるお話など、たくさん聞かせていただきました。次に格致学校を訪れたら、元気な子どもたちの姿が想像でき、校舎が生き生きとして見えることでしょう。

格致学校校舎での体験談や写真等の記録を、今後も継続して収集します。ご協力いただける方は、文化財センター又は図書館にお声掛けください。

(おことわり…文中には現在相応しくない表現もありますが、当時は再現する観点から、そのまま掲載しています。)

(本間美麻)





# さかきふれあい大学各種講座が開講!!

さかきふれあい大学各種講座を、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を講じ、開講しました。

## 公民館文化講座

4月15日(金)、令和4年度坂城町公民館文化講座開講式が行われ、13講座15教室の学びが始まりました。この講座は、新たな学びに挑戦しようとする初心者を対象としております。年度途中からの受講も歓迎です。講座内容については、ご家庭に配布されました生涯学習情報「まなびの玉手箱」をご覧ください。



古文書



茶道裏千家

## キッズスポーツ教室

キッズスポーツ教室では、幼少期のお子様が、いつもと違うお友達と運動や楽しいレクリエーションゲームを通じて、スポーツに親しみ、豊かな創造力を育てていきます。長野体育指導センターの山崎先生のご指導のもと、1年間元気よく活動していきます。



## リトミック教室

文化センターで歌やリズム遊びを通じて、豊かな感性や情緒を育むお手伝いをする「リトミック教室」がスタートしました。中沢敏江先生のご指導のもと、元気な歌声やリズムカルな運動をして楽しんで教室に参加されています。定員に余裕がありますので、興味のある方は坂城町公民館までお問い合わせください。



### 専門講座 坂城の里山に登ろう

5月29日(日)「坂城の里山に登ろう」が開催され、坂城町最高峰の大峰山(標高1327m)に登りました。天気にも恵まれ、さかき里山トレッキングクラブの講師のもと、参加した皆さん全員が登頂でき、山頂での景色を楽しんでいました。里山の自然や歴史に触れ、坂城の魅力を再発見できた素敵な一日となりました。



### 専門講座 続・楽しく脳トレ

5月28日(土)今年も脳トレ講座がスタートしました。講座では、少し変わったじゃんけんや左右の手で違う動きをするなど、誰にでも簡単にできる動作により脳を活性化しました。また、老若男女問わず楽しめる「囲碁ボール」で体を動かしました。自然と笑顔が生まれ、楽しく盛り上がっていました。



# 更埴公民館運営協議会分館役員研修会

更埴公民館運営協議会分館役員研修会を6月4日(土)に坂城町中心市街地コミュニティセンターで開催しました。

講演会では、松本市入山辺公民館長の小笠原鉄夫さんを講師に「住んでみたい・

訪れてみたい入山辺を目指す住民主体の地域づくり」と題してご講演いただきました。入山辺地区で取り組まれている、活気ある地域づくりを目指した活動について、具体的な事例をもとにご説明いただきました。

また、現地研修では、鉄道の展示館、坂木宿ふるさと歴史館、文化財センターを巡りました。旧北国街道坂木宿など坂城の歴史について、みなさん興味深く説明を聞いていました。



## 500字リレートーク 親愛なる友へ

飯田 美名

私は県外から5年前に坂城町に移ってきました。少

しずつ知り合いや友人を増やし生活に慣れ、坂城の自然を楽しんできた中でやってきたディスプレイス生活。もともとインドアなので最初は大変でないと思っていました。でもこれが数か月、半年、一年と続けば話は変わります。

そんな中で坂城町周辺の自然(バラ公園、川沿いの桜並木等)は、私の荒む気持ち落ち着かせてくれました。

でもやっぱり人と話したいと思う時もあります。それで離れている友人達に久しぶりに連絡を取りました。その中には十八年ぶりの友もいます。「丁度人恋しかったです」と互いに話が尽きず良い時間でした。昔の格言に「良い報告は、疲れた人にとつての冷たい水のように」

とありますが、気心の知れた友との話はお互いをリフレッシュさせてくれるものだと思えました。これからも彼女との友情関係が続くことを願っています。

「人との距離は保つても、心の距離は置かない。」そんなフレーズを目にしましたが、そのためには自分から一歩相手に歩み寄る事が必要です。でもこれがなかなか難しい。これから少しずつこの坂城町で心通える友を増やせるようにしたいと思います。

次は、濱崎千栄子さんです。





## 短詩型文学祭作品募集

坂城町と千曲市で構成する更埴公民館運営協議会では、第27回更埴地区短詩型文学祭を開催します。応募要領と投稿用紙は坂城町公民館にあります。入賞者には、表彰状と記念品を贈呈しますので奮ってご投稿ください。

**募集期間:** 7月1日(金)～8月31日(水)

**募集部門:** 短歌・俳句・川柳・現代詩

**投稿料:** 応募用紙1枚につき400円  
(小・中・高校生は無料)

**投稿先:** 坂城町公民館



## さかきふれあい大学教養講座

### 「♪ピアノ×写真×アロマ♪ 五感で楽しむ癒しのコンサート」

写真家岡田光司さんの作品をスクリーンでご覧いただきながら、風景からイメージする曲を作曲家美馬佳世さんがピアノで演奏します。写真や演奏にあわせてふわっと香る優しいアロマの香りもお楽しみください。

**日時:** 10月22日(土) 14:00～15:30

**会場:** 坂城町文化センター 大会議室

**受講料:** 無料

**出演:** 美馬佳世さん(ピアノ)

岡田康子さん(ナレーション)

山崎あき子さん(アロマ)



美馬佳世さん



岡田康子さん



山崎あき子さん

講座及び各教室の詳細は「まなびの玉手箱」をご覧ください。 問い合わせ先 電話82-2069(文化センター)

## 説 館 開 歌

梅雨の時期になりました。梅雨の時期の花と言え、アジサイを思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。雨に濡れていても、アジサイの淡い青色や紫色の花が映えます。

アジサイの花といえば、花が集まって膨らみがあるようなイメージを思い浮かべるのではないのでしょうか。アジサイの花は、装飾花と真花で構成されています。花びらのように見えるものは、多くの人が花だと考えているものは、装飾花の「萼片(がくへん)」と呼ばれ、一般的に「がく」と呼ばれる部分の葉が変形したもので、本当の花ではありません。花房の中心部分にあり、小さなつぼみのようなものが真花になります。

日本原産のガクアジサイでは、花房の中心付近にある小さなつぼみのように感じる点々が真花で、その周辺に並んでいる大きな花びらのようなものが装飾花になります。

アジサイを漢字で書くと、「紫陽花」となります。しかし、色がさまざまに変化することから、「七変化」と書くこともあります。アジサイの花の色は、土壌の酸性度によって変わります。一般に、「酸性ならば青色、アルカリ性ならば赤

色」になると言われています。日本の街中でよく見かけるアジサイは、淡い青色や紫色の花が多いのは、日本が火山大国であるため、酸性の土壌が圧倒的に多いということからです。赤い花を咲かせたい時には、土壌をアルカリ性にします。卵の殻を細かくパウダー状にして、アジサイに撒けば、赤色のアジサイの花を咲かせることができます。

同じ種類のアジサイでも、土壌の酸性度によって、色が変わります。環境によって、全く異なる色になってしまいます。環境によって変わってしまうものは、アジサイだけではありません。私達人間も環境によって大きく変わってしまいます。ウクライナ侵攻を進めているロシア人とウクライナ人は、同じ東スラブ人の民族です。しかし、住んでいる国の環境によって、その考え方は大きく変わってしまいました。ウクライナ軍事侵攻には、アジサイの花の色を変えるような特効薬はないのでしょうか。世界の人々の英知が求められています。一日でも早く平和が訪れることを強く願うばかりです。(T・T)

### 参考文献

武田幸作著

『アジサイはなぜ七色に変わるのか?』  
(PHP研究所)

